

## 第4回 鳥取市リノベーションまちづくり計画（仮称）検討委員会 議事概要

1 日 時 平成29年2月22日（火） 18:00～19:30

2 場 所 鳥取市役所4階第2会議室

3 出席者

(1) 出席者 倉持委員長、赤山副委員長、桑野委員、池上委員、成清委員、  
田中委員、楠委員、佐藤委員、赤井委員

委員出席9名

(2) 事務局 市中心市街地整備課

中村課長、有元課補佐、田中主事

(3) オブザーバー 鳥取県 その他関係者

(4) 一般傍聴者 15名

4 議 事

### <事務局より、構想（案）を説明>

#### 委員長（倉持）

まだまだ粗削りというかご意見があると思うが、1章、2章については、議論はせずに事務局の方でもうちょっと絞り込むなり、わかりやすく書くなりするということだ。もっとも意見があれば言っていただければいいが、我々は主に3章から7章でわかりにくいとか、もうちょっと大きくこれが抜けているとか、あれないとかそういう部分を含めてご意見をいただくということにしたい。時間もあまりないことなので進め方についても何かあれば随時ご意見をいただきたいと思う。順番は3章からということで進めて行くが、思いついたところからでも言っていただいたら結構なのでよろしくお願ひしたい。それでは、3章以降でご意見のある方はお願ひしたいと思う。

#### 委員（桑野）

「プレイヤー」の定義は何なのか。プレイヤーはチャレンジャーでそれが20代ということなのか。6ページだとチャレンジャーと書いてある。5ページだと高校生とか10代とか書いてある。確かに10代で中心市街地で店を自分で出すというと確かにチャレンジャーな気がするが、チャレンジャーの意味が違う。プレイヤーというのは誰のことを言っている

のか。

#### **事務局**

年代は絞っていない。

#### **委員（田中）**

3ページの「事業者（プレイヤー）」というところが、ずっと引用されているのかなと思って見ていた。

#### **委員（桑野）**

だったら「事業者」でいいのではないか。

#### **事務局**

事業者以降を全部プレイヤーで置き換えていて、起業したいとか、起業にチャレンジしたい人という意味で書いている。

#### **委員（田中）**

プレイヤーというのはリノベーションの業界内での通称というか通例なのかもしれないが、ちょっと軽いというか。事業者とか市の策定されるものなので硬い表現でもいいのかなと思うが。

#### **委員長（倉持）**

事業者以外のもっと軽いものを含めたいという思惑がある。

#### **事務局**

事業者に限らず。

#### **委員長（倉持）**

それをひっくり返してプレイヤーと呼びたいというなら、プレイヤーという言葉の定義をちゃんと書くしかない。事業を興そうしている人だけではないのだから。

#### **副委員長（赤山）**

例に挙げている中でも「空き地や駐車場を使って青空読書」って別にそこで金儲けしようということじゃなく、ただまちにそれで参画したいという、そういうのも含めてという意味だと思う。もっといい言葉があるかどうかだが。

### 委員長（倉持）

それこそ1章、2章のどこかで用語の定義をしておけばいいのではないか。

### 副委員長（赤山）

ここに書いてある（5ページの具体の事例）ような人たちがプレイヤーということなんだと思う。

### 委員（桑野）

一般的にプレイヤーって言っていると関わる人全員のことを言うので、何も定義がなかったら関わる全員、事業者も普通の枠組みで言うと行政だってプレイヤーであるし、住民だってプレイヤーになり得るはず。それでプレイヤーを探すとかみんなを支援する、みんなを応援する、みんなに来てほしいということしか言っていないので、あいまいなプレイヤーという言葉を使って、今までと違う雰囲気を出しているように見えるが、結局言っていることは何も言っていないと同じのように感じる。定義をすべきだと思う。

### 委員（成清）

方向性①は事業に関する起業とか産業創出、主に事業者のことが書いてあるし、例示されているような気がする。方向性②については認知症カフェ、高齢者サロンというのは事業とかかもしれないがそれは上（方向性①）にくるべきなのかもしれないが、方向性①は事業者に関わる、起業に関する事、方向性②はそうではない事業ではないものを持ってくる。言葉の定義をするのはなかなか大変そうなので事業者とか、下（方向性②）についても他の一般的な言葉で書いたらどうかと思うがどうか。

### 委員長（倉持）

方向性①を事業者にするということか。

### 委員（成清）

方向性①は事業だと思うので、事業者でいいのではないかと思う。方向性②は事業者ではないと思うので活動者とかそういった言葉になるのではないかと思った。

### 副委員長（赤山）

書いてあるテーマについてはこれでいいか。起業や産業創出にチャレンジ、雇用も生み出していくみたいなことはいいが、方向性②でコンテンツの集積というのがどうかと思う。

### 委員（成清）

このテーマは方向性①のことしか書いてないように思う。

### 副委員長（赤山）

次の4章にもあるが、中心市街地で遊休不動産・空間にチャレンジャーをかませるコンテンツを生み出してそれがリノベーションということか。あるいはコンテンツや活動者を増やしていくことがリノベーションまちづくりの基本的な考え方ということなのか。

### 委員長（倉持）

「構想の方向性」のところと次の「構想が実現したまちの姿」のところはやっぱりわかりにくい気がした。5章の「構想のモデルとなるエリア」ぐらいに具体が出るとわかりやすい。たぶん6章の図もたたき安いと思う。3章と4章、5、6ページのまとまらない感というのがあって、やはり一気に行き過ぎているんじゃないかなと思う。

### 副委員長（赤山）

結局そのコンテンツと言われるものを中心市街地に増やして行って、そのことによってだんだん人の意識とかあるいはまちの景色とかリノベーションされて行って変わっていくみたいなことをめざして、最終的には若い人たちが鳥取に、まちに、中心部に帰ってきたくなるまちになるっていうことがもうちょっとわかりやすくなった方がいいんじゃないかなと思う。コンテンツの集積がメインみたいになっている感じがして。

### 委員（田中）

今言われたままの文章が書いてあった方が分かりやすい。

### 副委員長（赤山）

リノベーションまちづくり、コンテンツを、とにかくコンテンツだけのことで書かれているような気がして。むしろそのことよっての人の意識の改革とかまちのかわりとかというのを目指すと行ってしまってもいいのかなと。リノベーションというのはそもそも、ただ単に遊休不動産とか空間を再利用とか利活用とかするだけでもないような気がする。そのようなこともちょこちょこ書いてはあるが。特に4番「構想が実現したまちの姿」というのがまちの姿って書いてあるが、あんまり姿が見えないなど。なんか楽しそうな姿が。

### 委員（田中）

仮のテーマが、「起業や産業創出にチャレンジ、そこにしかないコンテンツの集積」ってなっているが、それは方法であって求める結果じゃないので、このあたりテコ入れしていかないと修正できないのかなと。

### 委員（成清）

10次総合計画及び人口ビジョンよりというのが特に解決したい重点課題ということ。若者が出て行っているのに、若者が住み続けたい、帰ってきたくなることを目指す。でも、高校生アンケートよりというのは、その上位計画（10次総）の裏付け、その辺の位置付けをもう少しわかるように整理をしたらいいのではないかなと思う。方向性というのが具体的な手法で。方向性②については、ぼやっとしていて、特に方向性②の枠内のテキストを直した方がいいのかなと。

### 委員（桑野）

高校生アンケートよりというのがよくわからない。高校生アンケートで言っていることは、「田舎で日常生活の利便性が少ないから利便性をよくしろ」という風に言いたいと思う。けど書いてあることは「そこにしかないものをつくれ」と言っている。「利便性を上げろ」、「田舎じゃなくなって都会っぽいものをつくれ」って言っているのと、中心市街地を「そこにはないものでリノベーションしよう」というのがかみ合っていないのに、その若い人が利便性を求めるために、その人たちに「店を出店しろ」ということを言っているように次のページでは書いてあると思う。ストーリーとして、方向性までの3つのポイントが基本的に成立していないと思う。

### 委員（池上）

そこにしかないコンテンツとか、利便性が少ないとか、一度都会にでた人だとたぶんそこと比べると絶対的に都会の方がたくさんコンテンツもあるし、利便性もすごく便利なので、たとえばコンテンツの集積というよりかは、それによっておもしろい人が鳥取にいて、それを求めてというか、そこをめざして帰ってくるとか、そっちの方が鳥取らしい。自分がそうだったというのものもあるが、東京にずっと住んでいたんで、何をするにも東京の方が便利だし、たくさん物があったが、鳥取にいる人に興味を持って帰ってきたので、コンテンツの集積というよりかは人をもっとフィーチャーした方がいいと思った。

### 副委員長（赤山）

ちょっと思ったのが3章の構想の方向性で、テーマって書かない方がいいのかなと。このページは、中心市街地において構想のための方向性なので起業とかコンテンツの集積とかが方向性としてあって、それから次に構想が実現するまちの姿というのがあって、その時にまちの姿としてのテーマが、リノベーションまちづくりのテーマが出て来るのではないかなと思う。

### 委員長（倉持）

テーマ抜きにして、方向性2つありますということだけ言うとわかりやすい。

先ほど言っていた、コンテンツがあるから帰ってくるではなくて、人がそこで動いているから帰ってくるのだということもそうだと思う。

#### 副委員長（赤山）

それは構想の4章にそのことを入れてもいいような気がするが。そういう中で中心市街地の人の意識等をリノベーションしていくというのが最終的なまち、鳥取市が目指す姿だと思う。もうちょっとうまい言い方がいいかもしれないが、結局そこにも若い人たちがまちに関わってくることで多世代の人たちのコミュニケーションが生まれて、コミュニティが…というようなことも書いてあるし、そこで人との関わりということを強調した方がいいのかなど。そういうことをするためにアンケートとかいろんなことを踏まえて、2つの方向性でやっていきたいと思いますという流れでどうか。

#### 委員長（倉持）

「豊かな暮らしとか」そういうキーワードか何か。そこで楽しそうにしている人達みたいなのが、思い描けないと。

#### 副委員長（赤山）

豊かな暮らしとか、楽しい暮らしとか、そういうのは与えられるものでなくて自分たちで目指していきましょう見たいな、その辺の表現だと思う。

#### 委員長（倉持）

4章にうまくつなげるように、3章をいじるにはどうしたらいいか。

#### 委員（桑野）

高校生アンケートで、「定住したくない」理由を挙げてしまっているから、問題。数少ない定住したい人の理由を挙げて来るとたぶん鳥取の良さを大切にしたいとか地元に着があるとか言っているのをそれを成長させるためにはどうしたらいいかを考えるのであれば、高校生アンケートを使えると思う。

#### 委員（赤井）

逆に意識を変えろという方がリノベーションとかと相性が良い。もともと住みたいという人がフィーチャーされると思う。

#### 委員（桑野）

外に行きたいと思っている人に利便性を言うのではなくて、外に行きたい、ここはよくないと思っている人に実はいいと思っている人もたくさんいて、その人との違いが何かを

わかったうえで、出て行きたいと言っている人を住み続けたいに戻していくというのはその通りだと思うが、今少数しかいない住み続けたいと思っている人の理由は何かがちゃんとわかると、それにどうもって行こうかということにつながって、方向性につながる。

#### 委員（佐藤）

フォーカスすべき対象は高校生ではなく、ここに残っている方とか戻ってきた方の理由がまずあってからの方が分かりやすいのかもしれない。6ページの「構想が実現したまちの姿」というところの最後2行がたぶん目指すところなのかなと思う。「若い人たちがまちとかかわっていくことで、多様な世代や人々とコミュニケーションが生まれ、コミュニティが強化される。」、柔らかい表現ではあるが、こういうところを目指してチャレンジする人が動きやすい環境をつくることなのかなと思うと、出で行く人の理由にフォーカスするよりは、残っている人にフォーカスした方がいいのかなと思った。

#### 委員長（倉持）

思うがあんまりこのリノベーション自体に多数派少数派がなじまないような気がする。多くの人がこう考えているからこうだとか、これが少数派だからリノベーションだとかそういうところを飛び越えたところにあるような気がする。だから根拠にするのにこれを持ってくるのもどうかと思う。人口ビジョンが掲げている課題はよくあることを言っているだけなのでそれ自体はたいして問題ないが、ここに数字が入ってくるところに妙な違和感を覚える。方向性の話が、超個人の話が出てきて、その離れ加減がすごいあって、さっきから落ち着かないなっていう感じだが、皆様のご意見を聞いているとなんかそういうことも感じつつ、でもまだ数字を使うならこうだよねというところでご意見いただいたような気がする。ここは数字自体を使うかどうか判断して、もっと適切な根拠となるような話、ストーリーを入れる方がいいのかなと思ったりした。その方向性で修正するっていうことでどうか。

今の高校生アンケートはこれを一回抜いて適切なものをここに入れ替えて、そして次にテーマを外して、方向性として以下の二つがあるだろうということにして、5ページはひとまず終了。そんなような形にして、6ページに進みたいと思う。

#### 委員（田中）

言葉の関係だが、カスタマイズ賃貸住宅を「住み開く」が分からない。

#### 副委員長（赤山）

オープンにして皆に見てもらおうということか。

#### 委員（赤井）

たぶんプライベートな家を改造する。

#### 委員長（倉持）

住み開きという言葉がちょっと特殊なので。ちょっと前に流行った、まではいかないがいまいち定着はしていないような気がする。

#### 副委員長（赤山）

ちょっと書き方を変えた方がいいかもしれない。それをいうと、方向性①の事例の最後に「遊休不動産・空間を活用して稼ぎ、再投資」と書いてあるが、「稼ぎ」という表現はどうか。「利益を得」とかに変えた方がいい。「収益を上げ」みたいな。

#### 委員長（倉持）

ここを細かく見ると突っ込みどころがある。ちょっと見直した方がいいかもしれない。「中心市街地と周辺部をつなぐ産業」とかもすごく漠然としていると思う。

#### 委員（桑野）

という意味だったら、できるだけカタカナを使わない方がいいと思う。カタカナが多すぎてよくわからない。

#### 委員（田中）

業界用語のように感じる。

#### 副委員長（赤山）

全部用語集とか付けられると思うが、カタカナが多いので膨大な用語説明がある。

#### 委員（赤井）

方向性の最初の文章で 10 代から 20 代の転出が際立っていると書いてある。私は個人的に外に出た方がいいと思う。出ることが悪いという風に読めるというか。出て、鳥取は大学が少ないし、就職も限られているということもあるが、仕方がないことだと思う。それがその人の人生にとっても地域にとってもいいことだと思う。

帰ってきて、その視点というのが地元に戻元されて、地域資源を発見したりとか、地元に住んでいる人と交わることで新しいことが生まれたりとか、そういうことをやりたいとか、この構想ではそういうことだと思うので、この書き方はちょっと違うと思う。

#### 副委員長（赤山）

書き方、表現のし方ですね。

### 委員（赤井）

というかそもそも違うのではないか。それを食い止めるというか。

### 副委員長（赤山）

その意図ではないようだ。そういう人達が帰ってきたくなるまにしたいっていう。

### 事務局

6 ページの下の人口の社会動態のグラフが出ているが、出て行くところに対してしようとしているのではない。

### 委員（赤井）

「そのような要因による人口減少を抑制するために」とあるが、こことずれているというかわかりづらい。そういう意見も出たのか。

### 委員長（倉持）

出ていた。事務局の口頭の説明ではいつもそうだが、文章を読むとやっぱり残っている。なので、今一度表現を直してもらった方がいいと思う。書いているつもりでも伝わっている事実としてはこういうことになるということなので。

### 事務局

前回の委員会でも議論があったが、出て行くのを止めようとするのは難しいとして、帰ってきたいという方、Uターンしたいという方はおられて、その中でいちばん気にしているのはやはり働く場の確保。帰りたい方とか住み続けたいが出ないといけない方がいちばん気にしているのが働く場なので、もう一度グラフ（6 ページ）に戻るが、出て行きたい方を留まらせるというよりは、出て行ってもいつかは帰ってきたいと思った時に「働く」ということを選択肢が増えるようにしたいというのが方向性①。6 ページのグラフでは転出世代でないところをカバーにしている。それとともに、出て行く前の若い世代に訴えかけるようなまにに変えていきたいというところが方向性②のカバーしているところ。そういったイメージだが、文章の表現が適切ではなかったかもしれない。

### 委員（赤井）

それだったらふつうに働く選択肢を増やすとか書いたらいいのではないか。

### 委員（田中）

人口ビジョンよりというくだりもない方がすっきりする。事務局が今口頭で言われたことが方向性なので、そのまま文章にした方がいい。

### 委員（桑野）

高校生アンケートの部分で、「わからない」40%で、「住みたくない」20%だから「住みたい」が40%いる。「わからない」を無視すると「住みたくない」が20%で、「住みたい」が40%で、三分の二が鳥取に戻って来たいと思っている。三分の二が戻ってきたいけども戻って来れないという現状があるからそれを解決する方向性①、②でもいいと感じた。

### 委員（田中）

「住みたくない」の20%が一番住んでいたりするかもしれない。高校生は県外に出て初めてそこで住みたいかどうかの判断ができるわけで、高校生の中で住みたくないと言っているのはただ都会への欲求なわけで、実際こういう人達が住んでいそう。交通手段なんて自転車しか持ってないでしょ。なんか外に出られずじまいみたいな。そうなるこのアンケートを根拠にしない方がよいかもしい。

構想の文章にボリューム持たせないといけないわけではないと思う。端的に表記できるなら端的にした方がいい。

### 委員長（倉持）

5ページから6ページに係る話でわからないのが、方向性の①と②はどういう風に関係づくのかとか、まとまっていくのかというところ。

さっきの話で、ここに（グラフに）方向性②があって、方向性①があってとあるが、方向性①は働く場の環境をつくると言い切れるほどの量が出ないような気がする。だから、全体的には方向性②をやりつつ方向性①がその中にうまっていくというか、少しづつ出て来るといふかたちではないのかなと思う。例えば、次のグラフのところでは方向性②は早めのところに訴求するもので、方向性①はその後帰って働きたい人のために働く場を用意していく的な、起業するみたいなイメージだが、もうちょっと普通に来れないものか。

鳥取に住んでもらいたいと普通に思ってもらって、自分で職を探すというかまちなかに限らず職を探してもらって、街なかを楽しんでもらっても大きな課題としては解決すると思うし、そういう方向ではないか。やっぱりまちなかに働くにしてもなんにしても絡んでいく人でないはずなのか？そこがちょっとわからないが。皆さんその辺すっきりさせているか。

### 委員（田中）

方向性を①②で分けなくてもいいのではないかというか、結局一緒のことではないかと思う。今までなかったものが生まれればいいかなってということなのかなって解釈している。なので方向性①も②も同じなのかなと思ったりする。

5ページ、6ページの3、4章を分かれているが、これを一つにまとめて「構想の方向性」と「実現した後のまちの姿」というひとくくりにしたらだめか。頭に例えば図がきて、

こうこうこういう流れでこういう街にしたいという方が分かりやすいと思う。

#### 委員長（倉持）

残りの時間を考えて、ひとまず先にいきたい。エリアの話（7ページ）だが、花見橋通りというのがこれまでの活動なり、地元の手ごたえというか、踏まえて事務局としては具体案を出したというところだが、ここら辺についてはどうか。

#### 委員（赤井）

取り組みを進めて行く。取り組みって何ですか。

#### 委員長（倉持）

リノベーションの物件の掘り起こしとかするのじゃないかと想像される。

#### 委員（田中）

エリアで言うと南北の線でいうとここしかないと思う。東西とかだとまた違うかもしれないが。市の取り組みは、次のページ（8ページ）のグリーンのところ。

#### 副委員長（赤山）

ちょっと気になったのは、民間主導とっておきながら、市の方がエリアを限定することに対して、市の方から誘導することになりはしないかというのがある。このエリア設定に関してはこれでいいと思うが、他のエリアでやってはだめなのかという部分に配慮する表現があった方がいいと思う。ほかの地域でやっていることについて妨げるものではないと思うので。

#### 委員長（倉持）

具体的に動く話があれば書いてもいいような気がするが。ここをモデルにしたし、ここで取り組むみたいなの。ないのに書いてしまうとおかしい。やっているか、もしくはやりそうか。可能性がすごく高いという話があればいいが、なんでここでみたいに感じられる。花見橋通りのポテンシャルというところに理由はあると思うが。

#### 委員（池上）

今事業化に向かっている物件が確かにある。あとこの花見橋、高校生がすごく通る。それと方向性をつなげているのだと思うので、そう考えたら最初の構想のモデルとなるエリアということになり。ただ、それを知らない人から見たらなぜここなのかという話になる。

#### 委員長（倉持）

モデル設定の理由をあれば書いた方が良くと思う。例えばモデルをつくって一般的にはそこで優先的に事業を展開して、その成果を水平展開するよ、というのがモデルの役割だったり、実験的な意味合いがある。実現していくにあたってのモデルとなるエリア。何をするためのモデルとなるエリアなのか。池上委員のお話にあった花見橋通りのポテンシャルを書くというよりは、高校生たちにまちの楽しさを認識してもらうとか、前にそういうふりがあって、それを具体的に実現するエリアとしては、例えば花見橋通りが考えられるぐらいにしとく方が安全というか、具体名も出しつつ。モデルまで言わなくてもいいかもしれない。

#### 委員（桑野）

テクニカルなことだが、この図がよくわからない。before の線が全然よくわからないのと、after になって出てきた線がよくわからない。Link のその下の赤丸は線から出ている。

#### 副委員長（赤山）

ここにも書いてあるけど二核二軸って書いてあるのが、知らない人にとっては何のことだかよくわからない。中心市街地活性化基本計画で二核二軸が記述してあって、before がその二軸を示している。二軸を強化していくと書いてあるけど、二核二軸を強化するのもおかしい話で、むしろ二軸がある間のエリアを小さいところから、リノベーションできるところから、小さなエリアから少しずつ進めていって、それがどんどん面的に広がって二軸がうまく横だけではなくて縦につながっていくみたいなイメージなのかなと思った。面的に広がるような、それが after の姿。

Link というのは今現在既にある事例との関係性も今後結んで行こうという。たまたまエリアから外れているところが現在あるってということか。

#### 委員（成清）

これまでのリノベーションの実績をプロットしていった方が、今ここでエリアとして盛り上がってきているかなという根拠が出ると思うので。スクールの実績だけではなくて方向性へのページで出ている具体例のように、これまで先駆的に進められてきたことを含めて書いていくことで、この辺なんだということが見えて来るかなと。

#### 委員長（倉持）

ちょうどこのあたりにおさまる感じか。

#### 委員（成清）

二核というか拠点、駅周辺の間のこの辺ということですけど。ふわっと。あまり花見橋

というよりは、示してあるエリアのふわっとした間のあたりというイメージなのかなと。このあたりにこれまで10年ぐらいの実績がぼつぼつと書かれていた方がいい。

#### 委員（桑野）

独自の事例を拾い上げるならば、全部拾い上げないといけないことにならないか。新しくお店を始めた人の情報がなくて、自分で新しくがんばった人は含まれていないというメッセージになってしまうので、かなり注意してプロットした方がいい。

#### 委員（赤井）

ここに集中して、遊休不動産を出すということか。

#### 委員（成清）

出してもらおうとか掘り起こす作業とか、そういうものが必要になってきて、それについてエリアを絞ってやるとしたらこの辺のエリアでというようなエリア設定になるのかなと思う。

#### 委員（赤井）

それは市がやるのか。

#### 委員長（倉持）

それはプロセスのページと関連してくる。最初に赤井委員が言われた、どんな取り組みとつなげていくのという話とつながっている。

8ページに行くが、8ページの図についていろいろご意見がおありだと思う。例えば市の役割はどういうところを書いてあるのか。

#### 委員（成清）

目指すのが会議体というのでいいのかなということが気になった。この会議の延長のようなかたちで事務局を市が担ってということになると、これまで時々話が出ているように、民間の方に参画してもらうのに謝金を払わないといけないとか、その辺配慮しないといけないとか、そういうことも出て来るので、それでいいのかなと。

#### 委員（田中）

グリーンはたぶん鳥取市さんのことを示すと思うが、全体にかかっている所以自由度がないとか、お伺いたててやらないといけないようなイメージがあるうふうに見える。図の下だけグリーンにしたらだめだろうかと思うが。後方支援とか、自由にやる中に相談があったり何かあったりすれば役割を果たされればいいと。全部囲ってしまうと最終

的に元締めみたいな匂いがするというか、なんか自由度がないなというか。

#### **事務局**

他の自治体の事例でも図の中央で分けて、会議と市の取り組みを別に分けて表示されている場合もある。

#### **副委員長（赤山）**

いちばん上に「鳥取市リノベーションまちづくり会議（仮称）」ってあるのを下にもってきて、不動産オーナー、民間まちづくり会社、プレイヤーというのは民間のことなので、完全に分ける。

それを鳥取市が支援していくについて、会議という言い方が良いかわからないが、そういう検証していくところを設けて随時見直していくようなサイクルでいく。そういうイメージで変えてもいいのではないか。

#### **委員長（倉持）**

遊休不動産の掘り起こしとかプレイヤーの掘り起こしとか市の役割なのか？これは民間まちづくり会社の役割だったりしないのか。

#### **委員（田中）**

私もそう思う。

#### **委員長（倉持）**

その民間まちづくり会社の動きをサポートするというのが市の役割。一緒にやる。協働することもあるし、主体に民間まちづくり会社を立てる方が市の狙いとしてはいい。

#### **委員（佐藤）**

体制とプロセスがあるが、プロセスがない気がする。これは体制だと思う。プロセスを入れながらも体制ということにした方がいい。

#### **委員（田中）**

右に矢印がプロセスなのかなと読み取った。

#### **副委員長（赤山）**

まちづくり会議がありながらどんどん検証して行って、構想を変えて行ったらいいとか、検証して直して行ったらいいとかそういうのがプロセスではないか。

### 委員長（倉持）

今ここに出ているのは主に体制。おまけ的なプロセスがあるのかもしれないが。

### 副委員長（赤山）

いずれにしても最終的に図とかいろいろな表現をもう少し分かりやすくデザインした方がいいと思う。

### 委員長（倉持）

体制で不明確とか、わかりづらい点はないか。主に体制の図だとして。まちづくり構想から出ているちいさな矢印はわかりづらいが、これは、まちづくり構想を背景にしてこれをやるっていう、これにもとづいて市がやるっていうことか。

### 副委員長（赤山）

まちづくり構想が基本にあるということだと思う。

### 委員長（倉持）

基本の位置づけということか。ここは体制にして上下分けるようなイメージにふりかえて、鳥取市、民間まちづくり会社など、役割分担のところをもうちょっと厳密にというか、きちんと整理するというかたちで修正をかける。体制については、構想を見直してということまで書かなくてもいいような気がしてきたが、とりあえず体制の図の修正ということで行ってほしい。

次に3章、4章のところだが、合わせてしてしまおうというご意見もあったし、あとは絵でこんな図があったらわかりやすいという話だが。方向性とまちの姿が一つかみにできるような絵みたいなものがあるといいのではないかと。こんな絵があったらいいと思いつかれる方おられるか。

### 副委員長（赤山）

林さんはなにかないか。

### オブザーバー（林）

特になんかいいなあと思って見ている。なんとなくやりたいことというか、イメージが共有化できてきたような感じがしている。言葉とかもいろんな議論がされてすっきりされてきているし。すごくいいなあと思って見ている。絵のイメージはまだよくわからないが。

### 委員長（倉持）

絵についてではなくてもよいが、いろいろ出していただいたのに加えて、もうひと押し、

ふた押しというか、ご意見あればいただきたい。

これから修正案をつくることになると思うが、今特に代替案なりそういうのは出にくいと思うので、時間ももうないことなので、これだけは言っておきたいということはないか。特に3章、4章、次議論といってもパブコメに行ってしまうが、行ってしまうのを前提に、ここだけは気を付けておいてねというようなことがあればお願いしたい。

#### 委員（田中）

気を付けといてねということではないが、先ほどの絵でいうと **before**、**after** の中に例えば「働く」のアイコンみたいな、アイコンが増えていく感じにするとわかりやすいかなと感じた。

#### 委員長（倉持）

一点だけあってこの「風景をリノベーションする」という言葉がでてくるが、これが鍵カッコつきで登場するわりには、ここでいきなり登場してて、インパクトはあるとは思いますが、ちょっとわかりにくいということが一つ。図で言うと風景をリノベーションするのがまるで結果になってしまっているが、これはプロセスの話だと思う。リノベーションという言葉が結果になっているのかなと思って。これはあくまで手法とか手段の話だと思う。リノベーションという結果があるのか、ちょっとそこが気になるので、慎重につくった方がいいかなと思った。

#### 委員（桑野）

同じことだったが、3のところを書いてあることがリノベーションが手段で、こういうまちをつくりたいと言っておきながら、4のところに出て来る結果のアウトプットがリノベーションになっている。矢印の方向が3のところと4のところと逆になっている。おそらくそれは6ページの下の人口推移のグラフで解釈くださいということをつぶん言っているんだろうと思う。

まとめてひとつの図としてみるのはちょっと難解なので、リノベーションの先に何かがあって、ぐるぐる回って、リノベーションが進んで人が増えてハッピーになって、またリノベーションが進んでいくというのが結果だと思う。

#### 委員長（倉持）

それでは最後の8ページの7番の指標、構想の実現にそもそも指標がいるのか。計画だったらわからなくもないが。個人的には構想で特に必要とされてなければ出さなくていいような気がしている。この後で計画など事業をお金を使ってやるのがベースになるものが出てくれば指標はいると思うが、構想はそういう役割になるのか。

## 事務局

具体の計画ではないので、必ずしもないといけないというものではない。

## 副委員長（赤山）

これは具体的に数字を挙げて行くつもりだったのか。

## 事務局

もともとは。

## 副委員長（赤山）

今は？

挙げにくいと思う。

## 委員長（倉持）

計画だったら挙げないといけないと思うが。

## 副委員長（赤山）

結局こういうのは、構想というのがあって、それを実現していくために今後やっていくのであって、まちづくり会議などそういうもので検証していく中でこういう項目についてもいろいろその中で、雇用数が増えたとか、民間まちづくり会社の数が増えて行ったとか検証していく。この後の話かもしれないと思う。

そういうことを踏まえながら今後まちづくり会議で検証していくぐらいの書き方にした方がいいのかなと。

## 委員（田中）

数を入れちゃうとすごい数にならない。活用件数 100 件、200 件どころではない。今までの進め方を見てても、仮に 3 件として、雇用人数 20 人とかとしたら、出さない方がいい。なんとなくそんなものなんだと思われがちな数字になるのではないかなと思う。逆に夢がないというか。

## 委員長（倉持）

考え方としては、取るなり、会議の検証項目として少しここに書いておくというかたちでどうか。お金をかけて会議をするのであれば会議で何を目的として、どんな目標数値なのかみたいなことが出て来ると思うが、構想自体がお金をかけてする事業にはなっていない。理想を言えばもちろんあった方がいいが、ここに出ているのは、それにしてもちょっとドライだというか非常に事業ナイズな数字が出ているし、構想が捕まえたい数は本当は

もともとふわふわした感じだと思う。まちを楽しんでくれた人とか、そういう感じだと思うが。

#### **副委員長（赤山）**

今までの中で今後の取り組みとか、スケジュールの話が書いてあったのが、削られているのは、それはもう入れないということか。

#### **事務局**

実践者を交えながら、今後練っていくこととしたい。

#### **委員長（倉持）**

ひととおり7章までご意見をいただいた。最後に全体を通して、あるいは個別の部分でもなにか意見があるか。

#### **委員（成清）**

体制の部分で、すべての部分に関わらないかもしれないが、物件が商店街エリアとかだった場合に既に商店街組織の方々が調整役でかかわってくださったりしているので、それが挙がってきていないのがどうなのかなと考えていた。

あとは、中心市街地活性化協議会の記述がないので、調整役として関わる部分もあり言及してもらってら良い。

#### **委員長（倉持）**

民間まちづくり会社のところにそれが入るという意味か。

#### **委員（成清）**

いや、そうではない。

#### **委員長（倉持）**

でも上の金融機関とかと並列な感じではないと思う。もうちょっと特殊な位置取りになるような気がするが確かに実際動いているかともおられるので、考慮した方がよい。

ここにサブタイトルをつけたいという希望があるが。何かサブタイトルがあった方がいいという。

#### **副委員長（赤山）**

特に委員の中からはどうしても付けないといけないみたいなことはない。

### **委員長（倉持）**

事務局のリクエストだとは思いますが。

### **副委員長（赤山）**

もしそれ付けるんだったら、構想の中にも関連が必要。サブタイトルが浮いてしまう。

### **委員長（倉持）**

さっきの「風景をリノベーション」みたいなやつがここに出ているのならわかるが、これはここで決められるとは思わないので、そういうオファーがあるということを知っていただければと思う。

それでは終わりの時間となったので、事務局にお返りする。

### **事務局**

このあとパブコメにかける流れになるが、かなりいろいろ不足の点があり、ご指摘等いただいているので早急に校正をしていきたいと思う。修正したものを各委員にメールの方で送らせていただいて、ご説明させていただいて、パブコメに向かえればと思う。

長時間にわたりご議論いただいた。本日はこれで終了したいと思う。